

今回は、「俳諧物之草画」のいかにも蕪村らしい見せかたをしているところを、眺めて行こうと思います。

最初に、蕪村の言う「かけ物（掛物）」に相当する作品一つ：

「又平に…」を読んでおきましょう。

紙本着色。サイズは、103.4×26.4cm。逸翁美術館蔵。

賛は、まず詞書があって

みやこの花のちりかゝるは  
光信が胡粉の剥落したる  
さまなれ  
又平に逢ふや御室の花さかり

とあります。「蕪村」と署名しています。

つぎに、「蘭石図屏風」の左下部分です。「謝寅」と落款がありますから、晩年の作です。紙本墨画。四曲一隻(167.8×371.3cm。大和文華館蔵)を屏風に仕立て直したものです。全体図もお送りしますが、いい画像が探せなく、とりあえず、図録から写真を撮っておきました。

今日の話は左部分なので、支障ないのですが、やっぱり全体をもう少しゆったりみてもらいたいので、どなたか全体図のいいのを見つけてくださったら教えてください。

もう一つは、「峨眉露頂図」です。「三横物」としてよく知られています。これも今回は左隻を眺めるだけですので、精度の画像で、がまんしてください。紙本墨画淡彩一巻。28.8×240.5cm。TOREK コレクション蔵。これも落款は「謝寅」です。

とにかく、これらの作品から、蕪村の「俳諧物之草画」のちょっとした極意を覗くことが出来そうで、楽しみです。